

地域研修(岡山県) 地域研修カリキュラム

(1) オンデマンド講義(LMSを利用) 視聴時間合計:約6時間(※必須単元のみ) / 視聴期間:11月20日(月)~12月19日(火)

■ : 基礎的な内容の単元 □ : 応用的な内容も含む単元 ● : 受講必須 ◇ : 受講任意 ■ : 令和4年度修了者は受講必須

区分	単元	R5 受講	R4 修了	単元の概要	時間 (目安)	講師	単元の学習目標	
導入	- 内閣府からご挨拶	●	■	内閣府から受講者へのメッセージ。	5分	内閣府	-	
災害対応業務全般	1 防災行政概要	●	◇	災害対応の全体像について学ぶ。	20分	鈴木 毅 (内防・地方訓練)	・防災に関する業務全体を俯瞰し、各業務の概要・位置付けを説明できる	
	2 災害法体系と災害対策基本法の概要	●	◇	災害関連法の体系と災害対策基本法の概要を学ぶ。	15分	佐々木 凜太郎 (内防・総括)	・災害関連法の体系と災害対策基本法の概要を説明できる	
	3 防災計画の概要	●	◇	防災基本計画、地域防災計画、業務継続計画等の概要を学ぶ。	15分	大井 翔太 (内防・計画)	・防災基本計画、地域防災計画、業務継続計画等の概要を説明できる	
	4 大規模災害時における政府の初動対応	◇	◇	国の災害対策本部と現地組織の概要を学ぶ。	10分	重森 哲也 (内防・緊対)	・国の災害対策本部と現地組織の概要を説明できる	
	5 地区防災計画と住民主体の災害への備えの概要	◇	◇	地区防災計画、住民主体の災害への備えの概要を学ぶ	15分	小林 峻大 (内防・普及啓発)	・地区防災計画の取組を踏まえて、住民主体の災害への備えの重要性を説明できる。	
地域の災害特性	6 地域の災害特性	●	◇	地域の災害特性(地域の脆弱性含む)、想定される被害状況とその発生メカニズムを学ぶ。	60分	井上 達二 (岡山地方気象台)	・地域の災害特性と想定される被害の概要を説明できる。	
災害から命を守る	7 「避難情報に関するガイドライン」の経緯	●	■	「避難情報に関するガイドライン」について学ぶ。	15分	牛山 素行 (静岡大学)	・災害情報に関する基礎的な概念を説明できる ・内閣府「避難情報ガイドライン」のこれまでの動向について説明できる	
	8 避難行動の概要	●	■	防災情報に基づく適切な避難行動を学ぶ。	15分	牛山 素行 (静岡大学)	・避難行動の意味や分類を説明できる ・高齢者等避難、避難指示、緊急安全確保の意味を説明できる	
	9 防災気象情報の概要	●	◇	警報等の防災気象情報を受けた災害対応過程と態度を学ぶ。	20分	天羽 達 (気象庁)	・警報等の防災気象情報を受けた災害対応過程と態度を学ぶ	
	10 避難情報の発令判断・伝達等	●	◇	避難情報の発令に関する災害対応過程と態度を学ぶ。	15分	星尾 日明 (内防・調査企画)	・避難情報の発令に関する災害対応過程と態度を学ぶ	
	11 避難情報の発令判断・伝達等	◇	◇	避難情報の判断と伝達方法について学ぶ。	45分	岩井 真央 (内防・調査企画)	・住民等の避難行動の考え方について説明できる。 ・災害ごとの避難準備情報や避難指示等の判断に必要な考え方について説明できる。 ・避難情報を住民に伝達し、周知するための伝達方法について説明できる。	
	12 土砂災害における警報と避難	◇	◇	土砂災害における警報と避難の実務について学ぶ。	60分	大野 宏之 (全国治水砂防協会)	・土砂災害における警報と避難の実務について説明できる。 ・土砂災害における避難の注意点を説明できる。 ・土砂災害の前兆現象について説明できる。	
	13 土砂災害の事例に学ぶ	◇	◇	土砂災害における警報と避難の決心ポイントを学ぶ。	15分	越野 修三 (元岩手県 防災危機管理監)	・土砂災害における警報と避難の決心ポイントを説明できる。	
	14 風水害における警報と避難	風水害における警報と避難	◇	◇	風水害における警報と避難の実務について学ぶ。	30分	大滝 豊 (新潟県村上市)	・風水害における警報と避難の実務について説明できる。 ・水害時における災害対応の難しさを説明できる。
					マイタイムライン、避難計画などについて理解し、高齢者、障がい者、外国人への配慮など、避難誘導の際に留意すべき点について学ぶ。	30分	高野 正己 (新潟県関川村)	
						60分	高木 康伸 (気象庁)	
15 風水害からの警報避難における決心	◇	◇	風水害における警報と避難の決心ポイントを学ぶ。	30分	越野 修三 (元岩手県 防災危機管理監)	・風水害の予兆現象の活用について説明できる。 ・風水害における警報と避難の困難性について説明できる。 ・風水害における警報と避難の決心ポイントを説明できる。		
災害時の 応急活動	16 救助・捜索活動における連携の概要	●	■	救助・捜索活動における連携の概要を学ぶ。	15分	伊藤 学 (消防庁広域応援室)	・大規模災害時における広域消防応援体制を説明できる。 ・救助・捜索活動における連携の概要を説明できる。	
	17 国としての物資の備蓄および災害時における物資の調達・輸送	◇	◇	救援物資の調達・輸送の概要を学ぶ。	15分	影沼澤 稔 (内防・デジタル)	・救援物資の調達・輸送の概要を説明できる	
	18 応急対策職員派遣制度等の概要	●	■	応急対策職員派遣制度等の概要について学ぶ。	15分	佃 侑祐 (総務省応援派遣室)	・応急対策職員派遣制度の概要について説明できる ・総務省応援チームの役割について説明できる ・応援職員の力を活かすために必要な体制について説明できる	
	19 地方公共団体間の相互応援と受援体制	地方公共団体間の相互応援と受援体制	◇	◇	災害時の行政機関の間で行われる応援受援の仕組みと受援体制について学ぶ。	50分	豊泉 英明 原 章仁 (内閣府)	・応急活動の実施にあたっての行政職員の確保の重要性を説明できる。 ・行政機関の間で行われる応援受援の仕組みを説明できる。 ・行政機関の応援受援を円滑に行うための留意点を説明できる。
						50分	田代 崇憲 (大野城市)	
	20 地図による状況認識の統一とISUTの試み	◇	◇	GISによる統合された情報提供の必要性和ISUTの有効性について学ぶ。	70分	田口 仁 (防災科学技術研究所)  塚 偉 (内閣府)	・GISの必要性を説明できる。 ・GISとは何かを説明できる。 ・事例を説明できる。 ・GISを活用するためのポイントを説明できる。 ・統合された情報システムの構築に向けて説明できる。 ・大規模災害時の国による情報集約支援(ISUT)の仕組みについて説明できる。	
21 航空機等による災害情報の収集・活用	◇	◇	航空機等による災害情報の収集・活用について学ぶ。	30分	杉本 直也 (静岡県)	・災害対応時における航空機等による情報収集・活用の概要を説明できる ・航空機等による災害情報の種類と特長、活用場面(事例等)を説明できる		

区分	単元	R5 受講	R4 修了	単元の概要	時間 (目安)	講師	単元の学習目標
被災者 への支援	22 災害救助法の概要	●	◇	災害救助法の概要を学ぶ。	15分	阿部 嘉信 (内防・生活再建)	・災害救助法の概要を説明できる
	23 避難所の開設・運営の概要	●	◇	避難所の開設・運営の概要を学ぶ。	15分	伊藤 靖晃 (内防・避難生活)	・避難所の設置主体や役割を説明できる ・発災前に考えるべき避難所開設・運営の業務を説明できる ・発災後に考えるべき避難所開設・運営の業務を説明できる
	24 被害認定調査・罹災証明書の概要	●	◇	被害認定調査・罹災証明書交付の概要について学ぶ。	5分	湯浅 翔 (内防・生活再建)	・被害認定調査・罹災証明書の概要について説明できる
	25 仮設住宅の供給の概要	●	◇	仮設住宅の供給の概要について学ぶ。	15分	阿部 嘉信 (内防・生活再建)	・仮設住宅の供給の概要を説明できる
	26 多様な主体による避難所運営	◇	◇	地域の多様な主体が避難所運営に関わる ことの意義を学ぶ。	15分	本間 優子 (内防・普及啓発)	・地域の多様な主体が避難所運営に関わる ことの意義を説明できる
	27 災害時における男女共同参画の視 点からの取組の概要	◇	◇	災害時における男女共同参画の視点を学 ぶ。	15分	藤田 昌子 (内閣府男女局)	・災害時における男女共同参画の視点から 取り組むべき事項を説明できる
	28 災害救助法と被災者生活再建支援 法	●	■	被災者支援における災害救助法と生活再 建支援法の位置づけや手続き、適用事例を 学ぶ。	45分 10分	安東 和繁 (内閣府) 津軽 承熙 (内閣府)	・災害救助法の概要を説明できる。 ・生活再建支援法の概要を説明できる。
災害からの 回復	29 被災者生活再建支援制度の概要	●	◇	被災者生活再建支援法と業務の概要を学 ぶ。	10分	宮下 浩平 (内防・生活再建)	・被災者生活再建支援法と業務の概要を説明できる
	30 大規模災害からの復旧・復興の概要	◇	◇	激甚災害制度と大規模災害からの復旧・復 興の概要を学ぶ。	20分	小西 浩 山崎 秀昭 (内防・復旧復興)	・激甚災害制度の概要が説明できる ・大規模災害からの復興に関する法律の概要が説明できる
災害 ボランティア	31 災害ボランティア	◇	◇	災害ボランティアの意義・役割と行政との連 携について学ぶ。	15分	丸谷 浩明 (東北大学)	・災害ボランティア及びその活動の位置づけ・種類・特徴を説明で きる。 ・災害ボランティアの受入れ・調整に関する現地での仕組みを説 明できる。
					30分	栗田 暢之 (レスキュー ストックヤード)	・災害ボランティアの活動の実際と課題、展望を説明できる。
災害対策 本部運営	32 対策立案総論	◇	◇	災害対応における対策立案の考え方と情報 統括、活動サイクル、体制について学ぶ。	60分	林 春男 (京都大学)	・対策立案過程について説明できる。 ・当面の対応計画について説明できる。 ・対策立案能力について説明できる。
	33 災害対策本部が行う 対策立案プロセス	◇	◇	「当面の対応計画(インシデント・アクション・ プラン)」の果たすべき役割と基本的な構 造、立案のプロセスについて学ぶ。	60分	林 春男 (京都大学)	・計画立案が扱う範囲を説明できる。 ・当面の対応計画について説明できる。 ・状況認識の統一について説明できる。 ・目標による管理について説明できる。 ・資源管理について説明できる。 ・当面の対応計画の構造について説明できる。 ・責任担当期間計画について説明できる。 ・災害対策本部の進め方について説明できる。
	34 指揮統制総論 (世界標準に則した指揮統制)	◇	◇	災害対策本部組織を統制していくための理 論と基本構造を学ぶ。	60分	林 春男 (京都大学)	1. 総論 ・危機対応組織のリーダーが果たすべき責務について説明でき る。 ・危機にあたって組織のリーダーが行う業務について説明でき る。 ・効果的な危機対応を可能にする指揮統制の世界標準について 説明できる。 ・危機対応の世界標準を支える4本柱について説明できる。
					40分		2. 世界標準に則した災害対応体制の構築 ・災害対応でやるべきことについて説明できる。 ・効果的な災害対応を実現するために市町村が果たすべき役割 について説明できる。 ・Incident Command System (ICS) を基本とする組織編制・運営に ついて説明できる。
30分	3. 平時業務を世界標準に即した災害対応業務にどう変換する か ・災害発生後に基礎自治体が行うべき業務の全体像を把握でき る。 ・世界標準に即した災害対応業務が5つの役割で構成されている ことを理解できる ・市町村が中心になって活躍する災害対応業務6+1を理解でき る。 ・平時の業務を世界標準に即して災害対応業務に変換する こと ができる(ICS準拠)						
35 災害対策本部運営演習 ※講義のみ	●	■	災害発生後の限られた情報の中で状況を推 測し、対応方針を検討し、計画を立案し、 活動を調整しながら、災害対策本部会議に おいて対策を決定する手法を学ぶ。	30分	山本 晋吾 (兵庫県立 農林水産技術 総合センター)	・災害対策本部の運営について説明できる。	

(2) リアルタイム研修(対面形式) 開催日:12月20日(水) 10:00~17:00 会場:おかやま西川原プラザ

※以下は調整中の内容を含みますため、一部変更の可能性があります。

時間	単元	単元の概要	時間 (目安)	講師	単元の学習目標
10:10 ~12:20	1 【演習】 災害対応過程と態度を学ぶ	実際の災害発生時の地方公共団体の対応事例を 題材に、事前対策や災害対応に対する心構えを 学ぶ。	130分	瀧波 崇 (サイエンスクラフト) 木村 玲欧 (兵庫県立大学)	・災害発生前後に必要な行政の対応の流れを具体的に説明でき る。
13:20 ~15:50	2 【演習】 災害対策本部における対応	特定状況や課題に対する災害対策本部としての 対応目標の設定及び対策立案を中心とする災害 対応上のポイントを学ぶ。	150分	元谷 豊 (サイエンスクラフト) 木村 玲欧 (兵庫県立大学)	・災害対策本部の運営における目標管理と情報共有の重要性及 び対策立案の方法について説明できる。
16:00 ~16:50	3 【演習】 全体討論	研修全体を通じて学んだことから、地域の防災力 向上や備えに反映させるべきことを受講者間で考 える。	50分	事務局 木村 玲欧 (兵庫県立大学)	・研修を通じて、学び、得たものを整理する。 ・日頃からの「備え」につなげることを認識する。